

## 【会議記録】

## 第3回一宮市部活動地域移行検討協議会

日時	令和5年3月15日（水）14時30分～15時45分
場所	一宮市教育センター 第1研修室
出席者	委員12名（鈴木、春日井、土川、長谷川、小島、町田、五藤、芳賀、江藤、伊藤、藤原、野中）

### 1 開会のことば

### 2 一宮市教育委員会あいさつ（教育長）

### 3 議事

#### (1) 児童・生徒アンケート調査の結果について

- 事務局から以下のように提案があった。
  - ・小6年の調査結果において、休日地域クラブ活動に参加を「希望する」「どちらかといえば希望する」と回答した児童は51.4%。種目の希望は、バスケットボール、サッカー、ソフトテニスの順に割合が高くなっている。男女によって希望する種目に違いがある。平日の部活動への参加を「希望する」「どちらかといえば希望する」と回答した児童は83.3%。
  - ・中1、2年の調査結果において、休日地域クラブ活動に参加を「希望する」「どちらかといえば希望する」と回答した生徒は47.0%。種目の希望は、現在の部活動登録人数が最も多いソフトテニスが一番高くなった。参加希望を中学生10,000人の半数の5,000人と想定できる。
- 「どちらかといえば希望する」は、友達が入るなら入るという子どもで主体的に物事を決めることが得意ではない子である。長続きするかという問題もある。中学校の部活みたいに入部しただけで続けるものだと思っているけれども、自由参加となった途端に行きたくないという子どもでてくる。
- 5,000人という数は、「十分な数」であって、「必要な数」ではない。必要な数は「希望する」と回答した2割に満たない子どもたちであり、2割と考えてよいのではないか。
- 子どもにとってやめることは、準備をする私たち大人にとっては残念なことであるが、子ども側に立った時にやめる自由があることは、裏を返せば行う責任も伴うということによって新たな子どもの学びにも繋がっていく。
- アンケートをとる時に、出所を明記してほしいとお願いをした。一宮市部活動地域移行検討協議会が出すことで、子どもの休日のあり方を大人も考えているというメッセージとなると考える。

#### (2) 一宮市休日地域クラブ活動ロードマップ（案）について

- 事務局から以下のように提案があった。
  - ・令和5年度からの3年間で各種目のモデル事業を進めていき、種目によっては休日地域クラブ活動への移行を考えていく。改革推進期間の3年間、特に来年度の取組について進め方がよいかご意見をいただきたい。
- ロードマップに課題解決期とあるが、何が課題なのかかわかっていないと解決しようがない。課題は、移行期に走りながらやっていかないと見えてこない。
- モデルの例示が全体の例示に繋がっていき、種目ごとに組み立てられていくことが必要で組み立てられたものからスタートしていくことが現実的ではないか。
- 種目によってモデルは様々である。希望する人数や現在の既存の団体の状況によって変わってくると考えられるので一概にこのモデルの通りに進めれば上手くいくというものではないと考える。
- 文科省から部活動地域移行のメリットとして、参加の自由と多種目の選択の自由があり、子どもが合わないとなったら変わるという選択がある。
- 種目それぞれにモデルがあって多様な考え方があり、地域クラブ活動に切り替えやすいものもあれば、切り替えにくいものや新たに作らなくてはいけない一宮モデルのような形が必要になる。
- 外部指導者は、部活動の顧問の先生がいるところでの技術的な補助という形で指導をしている。今後、自分でチームをもちたいという考えがあるかどうか、アンケートで確認して指導者に繋がっていったら良いと考えている。

#### (3) その他

- ・特になし

### 4 一宮市教育委員会あいさつ（教育部次長）

### 5 閉会のことば